

# 九手連広報紙

## はっけん

2014. 6月号

### 鹿児島県手連一日研修会（現地研修会） ～出水のツルを見に行こう！！～

2014 . 2. 9 出水市ツル観察センター  
⇒ 飛翔館 ⇒ 武家屋敷

報告者：鹿児島県 出森



【ツル観察センター】

今季の羽数	
12,557	羽
ナベヅル	10,628羽
マナヅル	1,919羽
カナダヅル	4羽
クロヅル	4羽
ナベクロヅル	2羽

本日の調査はツル観察センターは、出水地区のツル観察センターに残り、観察不能となりました。  
本日もって今季の調査を終了します。  
なお、平成25年11月30日現在調査の12、557羽を  
今季の総数とします。

【ツルの羽数】

これまで県手連研修会は、鹿児島市を中心にして実施してきましたが、「現地研修会」という形で各地区サークルのみなさんとの交流もできたらいいなと願っていました。

今回の研修は、出水にツルが飛来している時期にしか実施できない内容でしたので、出水のサークル「まなづる」の皆さんに受け入れをお願いしました。そして、サークルだけでなく、出水地区聴覚障害者協会の皆さんにも全面的なご協力をいただき、心のこもった対応をしていただきました。そのことは、参加者全員が実感したことだ

と思います。

初めての現地研修でしたので、どれだけの人が参加いただけるか不安もありました。また、1週間ほど前に、ツルの第一陣が北帰行を始めたという報道があったので、どれだけのツルが残っているかということも気がかりでした。けれども、集合時刻の午前11時頃に鶴観察センターに着くと、すでに大きな人だかりができていてびっくりしました。また、ツルもたくさん群れていてほっとしました。現地の担当の方の話で64名の参加があったことを知りました。大口サークル「コアラ」の15名の皆さんも参加いただいたことは、本当にうれしく、ありがたいことでした。また、サークル会員だけでなく、たくさんの聴覚障害者の方にも参加いただけたことも意義深いことだったと思います。

鶴観察センターでの見学（ガ



イド付き)、近くのコミュニティーセンタ

一飛翔館での昼食・交流，武家屋敷の見学とい日程で研修・交流をしました。久しぶりの再会，初めての出会い，それぞれの場で手話を交えた楽しい語らいが続けられました。

## 第43回耳の日記念集会

平成26年3月2日(日) 於：ウエルとばた  
記念講演：「67年間誰も知らないろう偉人」  
～連盟創立70周年記念事業に向けて～  
講師：一般財団法人全日本ろうあ連盟  
理事長 石野 富志三郎氏

報告者：北九州地区新虹の会  
高橋知恵子

3月2日(日)第43回耳の日記念集会に参加しました。開場前から大勢の人が集まってあちこちで「お久しぶり」「元気だった」と手話が飛び交い、皆さんとても和やかで楽しそうでした。

耳の日とは耳から入る情報の多さ・重要性を理解し、耳を大切にし、感謝の心を忘れないでほしいという日ですが、開会の言葉や来賓の挨拶の中でも、聴覚障がい者は目に見えないため情報やコミュニケーションが取り難いと言われていました。石野富志三郎氏の記念講演でも、ろうあ運動に尽力された方々のお話がありました。

口話主義者でありながら「てまね(手話)はことばである」と言った、吉川吉之助・はま子氏は障がい者をインテグレーション(差別なく地域社会と密着した中で生活できる)を推進し、聾学校卒業者や女性の就労の難しさを指摘し技術訓練校の必要性を説きましたが、周りの冷たい視線に失望したそうです。「京都聾啞院を設立」された方や戦時中は「日本ろうあ協会」、戦後「日本ろうあ連盟」を結成した土屋さん・大家さん・高田さんらがいろんな差別問題や知る権利の為に行動を起こし改革していったそうです。財団法人設立時の書類には4大事業(新聞・図書出版・援護施設・身の上相談)があったそうです。

先人の活動を踏まえ「手話言語法」の制

定や、3年後福岡県で開催される連盟設立70周年記念の「第65回全国ろうあ者大会」を皆さんと一緒に取り組み成功させましょうとのお話でした。

休憩の後の手話劇「ブラザー」はとても面白く楽しむことができました。周りに一人でも理解してくれる人がいれば、幸せなんだなとわかりました。これからも手話を通じて、少しでもお手伝い出来ればいいなと思いながら家路につきました。

三月二日耳の日記念の集いに参加して  
報告者：多久手話の会

金持義和さんの講演では、生い立ちからデフリンピック出場までの苦労や葛藤などがあつたけど周りからの支えや協力があつたから今の自分がある。親への反抗などがあつたけど親や姉弟の存在が彼の気持ちを成長させたのだと思いました。自分の大好きな水泳を続けるために大阪で一人暮らしを始めたことには感心しました。引き続き母親のカツコさんの講演がありました。カツコさんは、なぜ自分の子供が障害を持って生まれて来たのかずいぶんと自分自身を責め苦しまれた様でしたが自分の子供達が子ども同士何の違和感もなく普通に会話をしている姿を見て気持ちが前向きになれたと話されました。井崎哲也さんのワークショップでは伝えることの難しさ、伝えることの大切さを皆で楽しく体験しました。



## 平成 25 年度熊本県手話サークル

### 「わかぎ」研修会

日時；平成 26 年 2 月 9 日（日）

会場；熊本大学

### テーマ

「防災・減災～今の私たちにできること～」

東日本大震災や北部九州豪雨災害など、日本各地、世界各国で様々な災害が起き、甚大な被害が発生しています。この様な中、いつ何時、私たちの身の回りに災害が発生するか分かりません、特に聴覚障害者に対する情報保障を含め、私達手話サークルが果たすべき役割について、改めて考えていく必要があると思ひ、今年度の研修会では「防災・減災」に対し、今の私たちにできることについて、みんなで考える場にしました。

午前の部では講師に長崎県諫早手話サークル会長の鶴川さんに災害ネットワーク作りの話しをして頂きましたが、地域で継続され、またパワーアップされている活動に本当に感心させられました。そして、参加者には、この研修会の内容を地域に持ち帰り、これからの活動にいかす貴重な材料にして頂きたいと思ひました。

### 「耳の日ふれあい '14」

you me タウンあらおシティーモール店にて

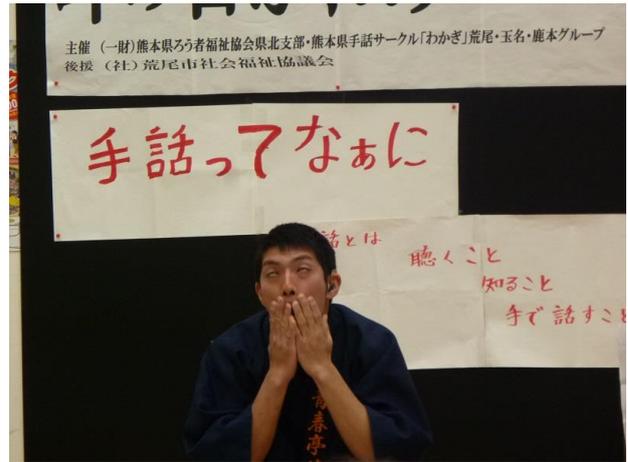
熊本の県北地域でろう協支部と手話サークルわかぎと合同で市民に対する啓発運動を行いました。今までは室内で講演会を開いたり、各地域から体験発表をしたりしていましたが、今年は、初めての試みとして、平成 26 年 3 月 9 日（日）に you me タウンで一般市民を対象に「ろう者からのメッセージ」「手話サークルからのメッセージ」と題しチラシの配布や、「ミニ手話教室」を開いたり、「手話落語」をやりしました。

でも、チラシを手渡そうとしてもなかなか貰ってもらえず、ミニ手話教室にも興味を持って習いにみえる方も数えるくらいで、手話への関心の薄さを感じました。

しかし、県北地域のろう者やサークル会員が一堂に会し 40 人以上の参加があった事は、他の地域の人達と交流を深める為にも

得るものがあったようです。

そして、これからも啓発運動を定着させ、市民の皆さんに関心を持って頂けるように活動をしていきたいと思ひます。



### 第 4 5 回 耳の日福祉大会 in いさはや 報告者：長崎通信員 草野

2014年3月2日、いいもりコミュニティー会館にて開催されました。長崎県ではろう協支部が4つあり、持ち回りで行なっています。今回は諫早支部が担当しました。

オープニングには、長崎県が今年の国体開催県と言う事もあり、大会キャラクターのガンバくん&ランバちゃんと一緒に「がんばらんば体操」を行って体をほぐした後、組織発展功労者表彰や議事を、進められました。



午後のアトラクションは、五十嵐 由美子さん・河合 祐三子さんの W ユミコさんによる演劇「おんな・女・オンナ」・トークショーと、一人芝居を繰り広げて頂きました、とても楽しい時間はあっという間に

過ぎてしまいました。

最後は全員で、諫早地方の伝統芸能「のん  
のこ踊り」(小皿2枚を両手に持って踊る)  
を、舞台と会場が一体となり最高に盛り上  
がりました！



## 大分県手連研修会

報告者：武原孝司

3月30日(日)に大分県手連研修会「第  
2回大分県手話通訳者認定試験対策講座」  
が行われました。

7月に大分県聴覚障害者協会が実施する  
手話通訳者認定試験の対策講座として受験  
を考えている人、将来チャレンジを目指す  
人、10数名が参加しました。

過去に試験を受けた人、まだ経験がない  
人、それぞれに緊張した表情で最初の説明  
を聞いていました。



内容は筆記の模試、読み取り通訳、聞き  
取り通訳、グループ面接など試験当日と同  
じ進行です。講師に3名の手話通訳士を迎  
え、聞き取り通訳ではビデオ撮影を行い、  
講師にアドバイスをその場で頂ける等、充  
実した研修になりました。参加者から試験  
合格者ができると嬉しいと思っています。



## 編集後記

この度は、発行が遅くなりましたこと心よりお詫び申し上げます。大変早くから頂いていた記事が情報として遅いものになりましたこと本当に申し訳ありませんでした。

さて、梅雨で大雨となり今年度より小さな畑の管理が仕事になった私としては気が気でありません。恵みの雨として嬉しい反面、降りすぎるとダメになるからです。作物を育てていると人を育てるのと同じだなあと感じながら、自分に育てる力が足りないことを実感します。自分も育ちたいと思うこの頃です。

九州手話サークル連絡協議会

(事務局) 〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和34-2

森 保夫

発行責任者：中元 教博

広報担当者：武原 孝司(大分)

発行年月日：平成26年6月20日